



【1】一種研開催報告

1月17日に新潟市駅近くのNinno3 会議室において、1月18日から19日まで新潟大学駅南キャンパスときめいとで、A・P研究会とWPT研究会が併催されました(写真1)。A・P研究会では、伝搬コンペ「電波伝搬研究における機械学習の活用」が7件と電波伝搬オーガナイズドセッション「新たな無線の世界を創る電波伝搬の研究」が12件、小形アンテナコンペが5件の講演依頼が行われ、WPT研究会では5件の一般講演が行われました。

IEEE AP-S Tokyo Chapterが2つの特別講演を主催しました。新潟大学の村松正吾教授が18日に「データ駆動型動力学モデリングにおける分析・合成システム - 河川モニタリングへの応用 -」と



写真3 左:A・P研究会委員長榊原教授
中: 金沢工大牧野滋教授
右: AP-S TC 山口 Chair

題する講演を行い、ご自身の多次元画像認識研究から分野を超えた河川モニタリングへの壮大な研究プロジェクト事例を詳しく紹介されました(写真2)。画像処理技術の応用の無限性と河川モニタリングへの難しさに感銘を受けました。19日には金沢工業大学の牧野滋先生が「研究開発に携わって今思うこと - 企業の研究、大学の研究 -」と題する講演を行い、大企業でのご活躍と大学での人材育成に関する貴重な経験を共有してくださいました(写真3)。

また、18日にA・P研究会が主催する「強化学習と計算機シミュレーション」というチュートリアル講演が実施され、東京電機大学の河野仁准教授が機械学習における教師ありとなしの違いや、第3の機械学習としての位置づけ、ロボットの走行制御事例などを披露しました(写真4)。



写真5 懇親会の様子

18日の研究会後にはA・P研究会とWPT研究会が共同で懇親会が開催され、年明け早々にもかかわらず、10名ほどの若手研究者を含む40名超の参加者が集まり、真冬の寒さにもかかわらず、熱い交流が行われました(写真5)。



写真1 研究会の様子



写真2 左:AP-S TC 山口 Chair
中: 新潟大村松正吾教授講
右: A・P研究会委員長榊原教授



写真4 左:東京電機大河野仁准教授
右: A・P研究会委員長榊原教授

【2】 第2回小形アンテナコンペの開催及び表彰報告



写真6 左:A・P研究会委員長榊原教授
右:受賞者埼玉大学 松島様

第2回のアンテナコンペは、指定された周波数における特定のカット面のV偏波およびH偏波の放射パターン積分（V偏波とH偏波は電力合成されます）の測定値を競い合います。放射パターン積分の測定値が最も高かった参加者には最優秀賞が授与されます。コンペは17日の測定と18日の発表で構成されます。今回は、5件の試作品の中で埼玉大学の松島様が「有限地導体板上のLプローブ給電マイクロストリップアンテナ」との試作品が見事に最優秀賞に選ばれました（写真6）。また、三菱電機小倉様の「面対称な小形の2素子方形カルアンテナ」と金沢工大中村様の「逆L型無給電素子付コニカルアンテナ」が特別賞に選ばれました。受賞おめでとうございます！

次回のアンテナコンペは、2025年10月27日から31日に福岡で開催される予定のアンテナ伝搬国際シンポジウムISAP2025において、Student Design Contestが行われる予定です。これから1年以上の時間がありますので、多くの学生の皆様のご参加をお待ちしています。

【3】 VJISAP2024の報告

1月8日から10日まで、ベトナムのハノイにある電力大学で、4年ぶりにVJISAP2024が開催されました。参加者は日本から30名（うち学生12名）、マレーシアから3名（うち学生1名）、そしてベトナム側は190名（うち学生は約100名）で、総勢200名超のワークショップとなりました。ベトナムの政府要職の方々や学長らがオープニングに参加し、VJISAP2024が非常に重要視されている印象を受けました。また、新潟大学の山田寛喜教授からのキーノート講演1件、NTTアクセスサービスシステム研究所の鷹取泰司氏と東北工業大学の袁による2件のチュートリアル講演が含まれ、総計28件の口頭発表と21件のポスター発表が行われました。ワークショップの一部様子はリンク<https://www.facebook.com/811217224/videos/1828165457655344/> から観覧可能です。

【4】 副委員長の戯言

◆ 百聞は一見に如かず(続き)

VJISAP2024の参加で、私が初のベトナム滞在ということで、その地元のコーヒーショップの数とコーヒーの美味しさに驚かされました。実際、ベトナムでの会議終了後約10日間、アメリカのサンアントニオに移動し、IEEE MTT-SのAdcom会議およびIEEE MTT-S RWW2024に参加しました。サンアントニオ会場で提供されたコーヒーを口にすると、なぜかベトナムでのコーヒーの美味しさに一瞬に懐かしさを感じました(笑)。

◆ AI技術の活用

近年、ニューラルネットワークや機械学習などのAI技術の活用がA・P研究会の発表においても急速に増加しています。これからの時代、人々は何ができるのかに対して不安を感じる方が多くいらっしゃるでしょう。私たちの世代は、予測できない側面が数多く存在し、その傾向に適応しつつも、自身のスキルを活かして利用するしかないのではないかと。ちなみに、ChatGPTに「ChatGPTより消える職種を教えてください」と質問したところ、「私の知識の範囲では、未来の職業や産業の変化について確定的な情報を提供することは難しいです。ただし、技術の進歩や社会の変化により、一部の職種は減少する可能性があります」というような回答が得られました。

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微（東北工業大学）

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

